

平成31年4月1日

発行人 長野県民生委員児童委員
協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 広報委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)

つなぐ



子どもを取り巻く現状と課題

Contents

◆ 特集 子どもを取り巻く現状と課題

- インタビュー「離婚と貧困そして子どもへの影響」... 2~3
- フードバンク信州の活動紹介 4~5
- 寄稿 親と暮らせない子どもたち 5

◆ 民児協訪問

- 木曾町開田地区民生児童委員協議会 6
- 小諸市東南部地区民生児童委員協議会 7

◆ 〈報告〉

- 長野県健康福祉部 大月良則部長との懇談会 8



民生児童委員活動の課題として、子どもの見守りのための情報収集や、学校との情報共有が挙げられます。そこで、今回は元長野県教育長で現在NPO法人子ども・家庭支援センターHUG（ハグ）の副理事長の山口利幸さんにインタビューを行いました。（インタビュー：熊井文弘広報委員長）また4ページから、食を通して子どもの支援に取り組むNPO法人フードバンク信州の活動を紹介します。

インタビュー 「離婚と貧困そして子どもへの影響」



プロフィール 山口利幸さん

昭和22年長野市生まれ。昭和44年から県の高校教員として勤務し、高校4校、中学校1校で社会科などを担当。平成3年から県教育委員会の指導主事として教育行政に従事、その後高等学校長を経て平成18年途中から県の教育長を2期6年半務め平成25年3月に退職。現在は母校の小・中学校の教育ボランティアや、NPO「子ども・家庭支援センターHUG」の副理事長などを務めている。

5〜6人に1人が 独り親の元で育つ

熊井 子どもを取り巻く現状についてお話しください。

山口 子どもの貧困は教育界でも無視できません。バブルの崩壊以降、高校の授業料免除を申請する生徒が1%ずつ上がっていった時代があり、学力格差と経済格差がはっきり見えてきました。いじめや不登校などの深刻な問題の背後に家庭の貧困が確実にあるのです。年間の婚姻数が60数万組。離婚が20万組で、その6割が未成年者の子を抱えているのです。

全国で新生児数が昨年92万人にまで減少しそのまま推移しますと、子どもの5〜6人に1人が独り親のもとで育つのです。

熊井 離婚が子に与える影響は、

山口 日本は離婚後、単独親権制です。調停も裁判も子どもが小さければ小さいほど母親に親権を認めるケースが多く、9割近く母親が親権をとりまします。祖父母の支援が手厚い場合や、正社員として収入が高いケースを除いて、母親たちは非正規やバイトを掛け持ちするなどして、子どもに手が回らない現状が生まれます。女性の労働環境が整備されていないこともあり、その状況下に子どもが置かれてしまつのです。

母子家庭の貧困率は54%

山口 親は離婚時に親権の取り合いをやりまします。養育費や面会交流の約束をしますが守らないケースが多い。協議離婚であれば決めない人が圧倒的に多いのです。離婚後、養育費が支払われているケースが3割、面会交流は2割から3割といわれています。

これが子どもに傷を与えています。私達のNPOでは子の面会交流時の引き渡しや付き添いまでやっています。子どもは父親に会ってゆくうちに、楽しそつに過ごすようになりますが、その気持ちを親権者である母親には言えない。子どもたちは苦しんでいるのです。日本でも共同親権制が必要で、親子関係を守るようになればいいのですが。

熊井 だから親も生活に困ってしまうのですね。

山口 母子家庭の貧困率は54%です。仕事をやめて子育てをしていた人は、その後の仕事

がなかなか見つからない。子どもの貧困が不登校やいじめの背後にあるのです。

面前DVが 子どもの心を傷つける

熊井 今、NPOでどんな活動をしていますか。

山口 会員は臨床心理士、ケースワーカー、民生児童委員のOBなど約60人。安曇野市に本部があります。県下3カ所毎月1回相談会を行っています。1組につき1〜2時間、昨年度は81組221の相談内容がありました。一つ一つが個別の悩みで大変重い内容です【表1】。

熊井 児童養護施設松代福祉寮に行ったとき（P5記事参照）、親と暮らせない子どもたちの理由のトップは両親などによる虐待と聞いてショックを受けました。

山口 妻が夫のDV（家庭内暴力）を避けて、家出する形で別居状態に入り、連絡を遮断する。警察にお願いして、接近禁止命令を出してもらいます。DVの場合は多くの場合離婚に至ります。子どもへの面前DVはかなりの多く、子どもに与える影響が大きいです。自分が言うことを聞かないから母親が責められていると思う。小さい子は暴力で体が硬直して身動きが取れなくなり、不安感に襲われ、成長しても強く叱られるとフラッシュバックし、ぬぐいがたい傷を与えるのです。

熊井 我慢することを良しとする慣習もまだありますね。

山口 離婚することが悪であるということに捉えると間違つた方向に捻じ曲げてしまします。離婚しても親権者は親子の関係には責任をもち、別居親に対しても愛情を実感できる関係をつくってやる必要があります。

【表1】 NPO子ども・家庭支援センターHUG相談実績 (平成29年度)

相談内容に夜分類	内 容	件数(%)※	大分類(件)
離婚・別居相談	① 離婚・別居相談	52 (64.2)	112
	② 親権	16 (19.8)	
	③ 養育費	32 (39.5)	
	④ 離婚後の生活相談 (生活費、不動産の名義変更など)	12 (14.8)	
子どもについての相談	① 子による親や兄弟に対する暴力やトラブル	3 (3.7)	50
	② 別居・離婚家庭の子と別居親との面会交流	23 (28.4)	
	③ 子どもの発達障害などの障がい	10 (12.3)	
	④ 子どもの不登校や非行	4 (4.9)	
	⑤ 離婚後の子どもの苗字や養子縁組の解消など	2 (2.4)	
	⑥ 子どもの婚姻や家庭の相談	6 (7.4)	
	⑦ 子どものゲーム中毒	2 (2.4)	
夫婦関係の改善についての相談	① 子どもはいるが、夫婦関係を改善したい	16 (19.8)	26
	② 子どものために夫婦関係を改善したい	10 (12.3)	
そ の 他	① 未婚の出産関係	1 (1.2)	33
	② 老後相談	1 (1.2)	
	③ 復縁したい	1 (1.2)	
	④ 配偶者の病気 (心療内科受信中など)	12 (14.8)	
	⑤ DV,アルコール依存、借金などの相談	5 (6.2)	
	⑥ 浮気による別居・離婚	12 (14.8)	
	⑦ 親の介護や家族関係	1 (1.2)	
計	全ケース81件(100.0%)	221	221

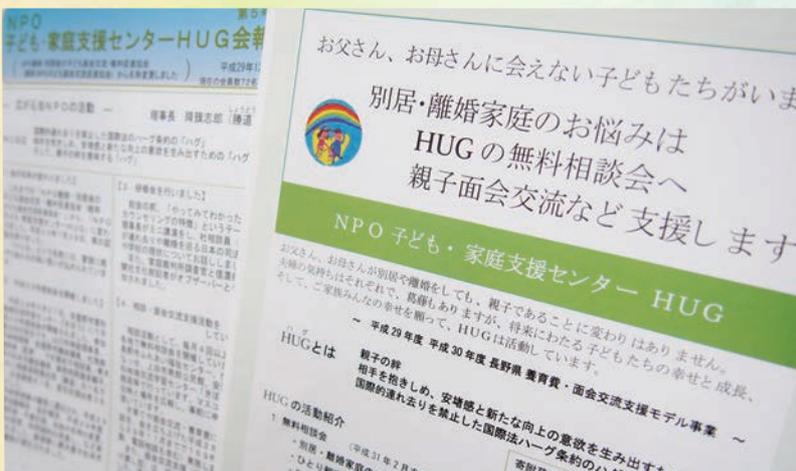
※:(%)は全ケース81件の相談割合

特定非営利活動法人子ども・家庭支援センターHUG (理事長 降旗志郎)

〒399-8305 安曇野市穂高252 TEL 0263-83-2745 FAX 0263-83-4161

活動紹介 (詳細はホームページ<http://apvisitation.wixsite.com/home/>)

1. **無料相談会** (別居・養育費・面会交流・ひとり親家庭の子育て・離婚・調停・裁判に関する悩みなど)
長野市ふれあい福祉センター・安曇野市豊科交流学習センター「きぼう」・岡谷市総合福祉センター「諏訪湖ハイツ」
2. **親子面会交流支援** (連絡調整・受け渡し面会・付き添い面会)



▲HUGの会報とチラシ

学校と連携し、相談できる場も

また子育て世代のための雇用環境づくりは社会がすぐ取り組まなければならないことです。

熊井 子どもに関する情報が入りにくい。近年、学校が情報を出さなくなってきたのでは。

山口 いじめが原因となっており、子どもが自殺することが社会的な話題となりました。「いじめ防止法」が制定され学校での対応が整えられました。抱えている課題について地域のしかるべき

き人に相談してほしい。

学校は信州型「コミュニケーションスクール」を実施しています。ぜひ民生児童委員の方に進んでその運営に関わっていただきたい。学校と福祉関係者が家庭の情報や問題なども共有していけます。

熊井 我々はこんなことができますか。

山口 親が子育てする中で孤立しています。日常的に相談する人間関係がない方が多い。カナダでは街角に子育てサロンがあり、歩いて相談に行き、すぐに適切な関係機関につないでくれる。高校生のボランティアもいて、

そういうものが身近にあるといいと思います。**熊井** 民生児童委員も子育てサロンをやっています。実際参加する人は、問題のない人が多いのが問題です。

山口 街中に勤務していて、ちょっと子どもを預けて相談に乗ってもらえるスポットがあればいいですね。社会に対し負い目を感じている親が多いため、行政ではなく我々NPOのような民間の活動がもっと地域に広がればいいなと思います。ぜひ声をかけてください。**熊井** 民生児童委員にも活動について直接伝えてほしいです。ありがとうございました。

食を通して子どもたちの支援 フードバンク信州の 活動紹介

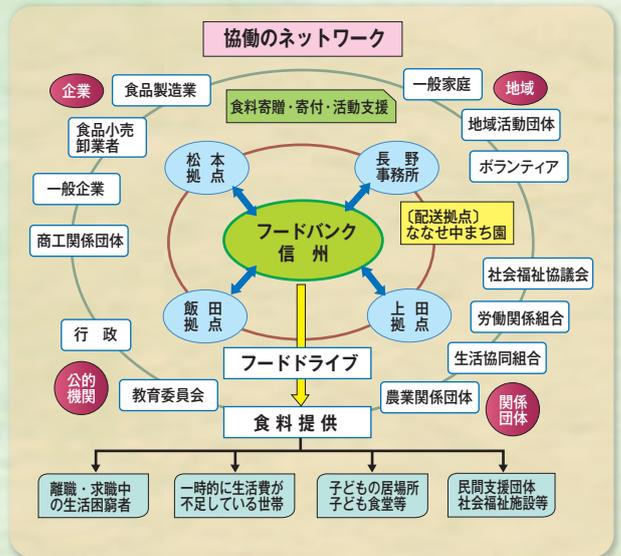


▲フードドライブは市民参加の窓口



▲こどもの居場所で食の大切さを学ぶ

図1 フードバンク信州食料循環の仕組み



子どもの7人に1人が貧困で、特にひとり親家庭の半数以上が相対的貧困とされています。一方で日本の食品ロスは年間646万トン、家庭と事業者それぞれ約半分ずつの割合となっています。この二つの社会課題を同時に解決しようと始まったのがフードバンク活動です。今回は食を通して支え合いのネットワークを広げることを目指しているNPO法人フードバンク信州を紹介します。理事で事務局長の美谷島越子さんにお話を聞きました。

地域に支え合いの ネットワークを

「私たちが目指すのは、地域に支え合いのしくみを作ること」と話すのは事務局長で理事の美谷島越子さんです。美谷島さんは長野県社会福祉協議会を退職したあと、困窮者の相談支援に関わった経験から食を通して支え合いのしくみが必要と、フードバンク信州設立に携わります。

2014年、社会福祉団体、生協、農協、労働団体などが集まって、フードバンクと困窮者支援を考える会を立ち上げ、県外の事例研究など準備を重ね、2016年2月にNPO法人を設立しました。食品製造者、卸業者、小売業者、個人、行政、企業、団体などから食料を寄贈してもらい、支援を必要とする人々や福祉施設、こども食堂などに食料を届けます。食料支援を通じて、生活困窮者や子ども

もたちを地域で支える協働のネットワーク(図1)づくりを目指して活動しています。

現在、長野、松本・上田・飯田に拠点を置き、地域の団体やグループ、行政、企業などと協働し、食料を集める「フードドライブ」を開催しています。「余剰品や季節商品などの寄付や、古米・お菓子・レトルト食品など保存のきく食料を多くの企業や市民から提供が広がっています。缶詰一つでも気持ちがあるときます」と美谷島さんは話します。企業、個人からの直接寄贈と、定期開催やイベントのフードドライブで2017年度は約26トンもの食料が寄贈されました(表1)。

食を通して子どもたちの 未来を応援

寄贈された食料は、支援機関を通じて個人や福祉施設などへ提供されています。

また今年度は特に子ども食堂などの子どもの居場所への食料の支援数が増えています(表2)。「食を通して子どもたちの夢をつなぎたい」と美谷島さんは、昨年度、給食が食べられなくなる夏休みと冬休みに重点的に支援する「子ども応援キャンペーン」を実施。約70世帯に食料を届けました。

1月には小諸市と塩尻市で、「こども支援とフードバンク活動を広げるセミナー」を開催。フードドライブに関わる団体や福祉関係者、民生児童委員、子ども食堂



▲理事会写真(前列左が美谷島さん)

表1 フードバンク信州食料寄贈実績

区分	2017年度		2018年度(18.4~19.1)	
	寄贈者	重量(kg)	寄贈者	重量(kg)
直接寄贈	企業	18企業	18企業	4,661
	団体	47団体	41団体	5,586
	個人	78人	75人	2,764
	計			13,011
フードドライブ	定期開催	36回	29回	3,289
	イベント	55回	76回	8,079
	計			11,368
合計		26,050		24,379

表2 フードバンク信州食料支援実績

区分	2017年度			2018年度(18.4~19.1)		
	件数	重量(Kg)	内 訳	件数	重量(Kg)	内 訳
個人支援	1,442件	8,652	まいざほ23か所 43市町村(553人)	1,168件	9,021	まいざほ21か所 37市町村(498人)
相談・支援機関	70件	16,318	市町村社協・支援団体 福祉施設等	40件	12,558	市町村社協・支援団体 福祉施設等
子ども支援	5団体	260	居場所を運営する団体に 提供	36団体	1,819	居場所を運営する団体に 提供
			子ども応援キャンペーン	1,027		夏休み 18世帯 冬休み 53世帯
合計		25,230			24,425	

特定非営利活動法人フードバンク信州

(理事長 佐藤豊)

本 部

〒381-0034長野市大字高田1029-1

長野事務所

長野市栗田950-6メゾン栗田102号

TEL 026-219-3215 FAX026-219-3216

活動紹介

(ホームページ <http://foodbank-shinshu.org/>)



▲小諸会場でのセミナーの様子

の運営者、地域の子育て支援者などが集まり、子育て支援と食支援の関係について考えました。基調講演は長野大学福祉学部教授鈴木忠義さん(小諸会場)、松本大学総合経営学部尻無浜博幸さん(塩尻会場)。各地域で進めるフードドライブや子ども居場所などの事例発表と支援者同士がつながるグループワークも行い、協働のネットワークづくりについて知恵を出し合いました。

美谷島さんは最後に「フードバンクは、食料を無駄にせず循環させることで、地域を元気にする活動。フードバンク活動に関わることで身近な貧困を考えるきっかけにしたいだけじゃうれしい。ぜひ民生児童委員さんにも強力な助っ人になっていただきたい」と話していました。

寄稿

親と暮らせない子どもたち

児童養護施設

「松代福祉寮」

長野市浅川地区民児協

熊井文弘



私が所属する浅川地区民児協では、毎年、福祉施設などへの視察研修を行っています。昨年度は児童養護施設「松代福祉寮」(長野市松代町)を訪ねました。

さまざま理由で親と暮らせない子どもは全国で4万5千人、長野県内で600人にのぼるとのことですが、そのほとんどが県内14の養護施設で生活しています。

昭和27年開設の松代福祉寮は、小舎制による小規模グループケアに取り組んできました。敷地内には「虹の家」と呼ばれる5棟の小舎が建っていますが、町内の少し離れた所にも二つの「虹の家」があります。幼児から高校生まで49人が7棟の「虹の家」に分散、生活していて、寮長以下41人の職員がその世話をしています。

「虹の家」の棟に案内してもらいました。定員6人ということですが、居室をはじめキッチンや浴室など質素ながらきれいに整備されていて、登校中の子どもたちには会えなかったものの、生活の一端をうかがうことができました。

親と暮らせない理由で最も多いのは、両親などによる虐待と聞いて、心が痛みました。また、親子関係で深い傷を負った子、家庭復

帰が望めない子など入所理由も複雑になり、よきめ細かい対応が必要になっているということです。

松代福祉寮では、年間を通してさまざまな活動を行っています。かかしコンクール(7月)や虹寮祭(10月)は、地域の人たちとの交流の場になっています。

寮内を案内していただいた加藤次長によれば、現在の課題は里親探しということです。親と暮らせない子どもを家族として迎え入れ、養育する里親制度には、養育里親、養子縁組里親などがありますが、引き受けてくれる人がなかなか見つからないのが現状だと言います。

児童委員を兼ねている私たちにあって考えさせられることの多い視察研修でした。



▶虹の家の前で

児童養護施設「松代福祉寮」

〒381-1221長野市松代町東条2480-1

電話：026-278-2556

訪問



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協
だより



木曽町開田地区民生児童委員協議会



▲9人という小さな所帯で横のつながりを密にしている。前列の男性が平井会長。

委員の役割は「つなぐ」こと。しかしそれだけでは済まなくなっていると、平井敏幸会長は指摘します。介護の必要な高齢者も病院に長期入院できない、入所できる介護施設がない、そしてケアする同居人がいないのに在宅介護となる「ひとり自宅介護」が増えていることから起きる問題に、関わらざるを得なくなっているからです。例えばデイサービスに行くのを拒む人

「つなぐ」だけでは済まない地域の現実に向かう力は、信頼関係と仲間の支え合い。

を、誰が説得するのか。定例会でも、社協職員から民生児童委員に向けて深刻なSOSがでていました。若い世代は、戻らないことを前提に塩尻や松本に出て行く実情で、高齢化率も40%以上。今後の改善は期待できません。「地域で介護の国の方針は分かるが現実とは…」と、平井さんでは家族が介護していればいいのかというところ。実は家族であるがゆえに難しい」とも。冷静になりにくい家族間に他人が入ることでも落ち着く面もあることから、民生児童委員の出番となることもあります。

このように、つなぐ以上の事態になったとき、柔軟に、しかしムリをせず対処するために最も大切なのは信頼関係です。今年で民生委員10年目という平井さん自身、1期目はこの関係を築くのに大変なこと、2期目になるとだいぶ楽になるのを理解しており、委員の任期は基本3期としていきます。農業と観光が主な産業で自営業が多い地区柄、定例会の出席率が低いのが悩み。開催を午前にして好評ですが、農繁期や観光シーズンに下がるのは避けられません。

忙しい中、高齢一人暮らし宅の訪問をマメに行うことには全員が力を入れていきます。冬は雪のチエックと除雪業者への連絡も欠かせませんが、豪雪地帯だけにたいていの家に小型除雪機があり、委員自ら手伝つことも。夏場の重要ボランティアは特別養護老人ホーム「開田の里」の草刈りです。「人手不足の中ががんばっているスタッフの負担をいくらかでも軽減できれば」と行っているもので「山の中なので女性も普通に草刈り機を使う」という強みが生きる活動。定例会の司会は事務局が担当、開田支所長も参加し行政、社協、民生児童委員一丸となって地域の課題に取り組んでいます。



▲夏場は特別養護老人ホームの草刈りボランティアで貢献。

小諸市東南部地区民生児童委員協議会



▲民生児童委員は18人、前列中央右側が荒野会長。

地区では見守りとつなぎを重点に。小諸市全体で課題とニーズを把握し対策を。

「地域の人に信頼してもらわないと民生児童委員の活動はうまくいかない。草の根活動のようなもの」と話すのは東南部地区会長と小諸市民児協の会長もつとめる荒野亜土さんです。「やはり高齢化が課題」とのこと。丁寧な見守りと訪問に重点を置いた上で、社会福祉協議会が行う「健康達人区らぶ」に協力し、体操やレクリエーションなどで地域の元気なお年寄りの介護予防に努めています。小諸市では民児協全体で4つの

部会を作って、委員全員が所属し、地域を超えて活動をしています。高齢者福祉部会、児童福祉部会、主任児童委員連絡会、広報部会です。東南部地区の定例会では、市民児協の理事会の情報共有や、各部会活動の報告や意見聴取が行われています。

訪問した日には児童福祉部会の地区部会長が取り組むべき活動についてみんなに意見を求めています。小諸市は過去10年ほど不登校の生徒数が県下で最も高いとの結果が出ています。委員からは「不登校の原因を教育委員会が分析して我々に伝えてもらわないとどう対処していいかわからない」「そもそも不登校がわからないことなのか疑問」「学校の情報開示が甘いため、個人情報入手に限界がある」などの厳しい意見が交わされています。

また毎年佐久市の主任児童委員との交流会も行っているとのこと。そして小学校では見守り隊として信州型コミュニケーションスクールにも協力したりしています。小学校の校長が定例会に毎月出席し、民生児童委員との情報交換もしています。

「小学校を卒業して多校から集



▲定例会では、連絡事項は短めにし、発言を大事に進められています。

まる生徒の中で不登校になる生徒が目立つ。小学生の内に声がけし、関係作りをすることがカギ」と会長は説明します。

高齢者福祉部会では地域での困りごとやニーズのリストアップをしています。「高齢者が抱える問題の洗い出しをして対策を立てる。大変な作業だが一歩一歩進めていくことが大事」と地区部会長が発言しました。

「見守りつないでいくためには、当事者がなにを求めているのか想像力を働かせること。そのためには日ごろから様々な知識の引き出しを一杯にすること」と荒野会長。定例会では「地区会なんでも発言」のコーナーも設け、自分の趣味や個人で取り組む活動のPRもあっています。



表紙写真紹介

「春を楽しむ」

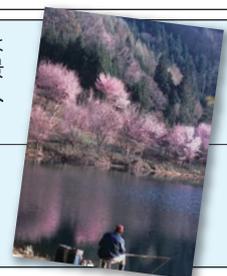
撮影

安曇野市豊科地区元民生児童委員

岡村 豊作さん
(おかむら とよさく)

大町市の仁科三湖の真ん中にある中綱湖の「オオヤマザクラ」は5月初旬にピンクの花を付け、水面に映るシンメトリックな風景は多くの人を魅了し、また釣り場としても人気の湖です。釣り人を添景にのどかな春を捉えてみました。

profile 平成19年に4期務めた民生児童委員を退いて以降、今も地域の福祉活動に関わりながら趣味の寫真に没頭し、前向きに過ごしています。



長野県健康福祉部 大月良則部長との懇談会 開催

平成30年11月30日長野市内において、長野県健康福祉部大月良則部長との懇談会を開催しました。県民児連からは伊藤会長をはじめ副会長、理事、監事12名、長野県からは大月部長、町田地域福祉課長、係員の3名、他に県社協から小穴地域福祉部長、係員の2名が参加しました。

冒頭、大月部長から日頃の民生児童委員活動に対する感謝などのあいさつがあり、大月部長の進行で懇談に入りました。懇談の主な内容は次のとおりです。

- 1 地震などの災害時に住民が孤立してしまったときどう対応するか。
 - ・ふれあい(住民支え合い)マップは重要だが、作成に当たり個人情報の関係で難しい面もある。
 - ・市町村行政が持っている住民情報を民生児童委員が承知できれば先に進む。
 - ・市町村によっては自治会単位でふれあいマップを作成しているが、自治会に入会していない住民の状況は分からない。
 - ・ふれあいマップは災害時直ちに活かせることが大切なので、適宜修正を加える必要がある。
 - ・防災意識は、被災した経験の有無などにより地域で大きな格差がある。
- 2 高齢者(65歳~75歳)の呼び方のアイデアがあれば提案してほしい。
 - ・老人会をシニアクラブに改称したことにより活動が活性化した事例がある。
 - ・老人会⇒朗人会 敬老⇒敬労
 - ・個人差があるので高齢者ということばの括りは必要ない。
- 3 民生児童委員のなり手不足と聞いているが、若い人のなり手確保は難しいか。
 - ・行政から行政や企業で働いている人に民生児童委員として活動するよう推奨していただきたい。
- 4 子どもの自殺者が長野県は全国2位と多いが対応策は。
 - ・子どもに関する情報が、学校からの提供も少なく、民生児童委員がかかわり難い。
 - ・地域の人とのかかわりや相談相手を増やすことにより自殺者が減るのでは。
- 5 県への要望
 - ・県広報誌に民生児童委員の活動などを掲載し、広く県民に周知していただきたい。
 - ・高齢者や子どもに関する実態調査などの結果報告や情報があれば提供していただきたい。

今後も意見交換の機会を設けることで懇談会を閉じました。

(報告/事務局)



編集委員

リリー日記

「平成」の時代が終わろうとしています。皆様のお手元に「つなぐ136号」がお届けされる頃は「新元号」が発表されていると思います。

県内ではこの間、長野冬季オリンピック開催、松本サリン事件、長野県北部地震発生、御嶽山噴火事故、自然災害も非常に多く、委員の皆様は地域に合った多くの課題を関係機関と連携しつつ、住民に寄り添い献身的に活動されてきたと思います。「元号」が変わっても私達は今までと変わることなく「民生委員児童委員信条」を胸に「誰もが笑顔で、安全に、安心して暮らせる社会」実現の為、力を合わせて頑張りましょう。

今回は「子どもを取り巻く現状と課題」を特集しました。子どもの「生きづらさ」をはじめ、不登校、児童虐待などで、特に不登校、児童虐待となる要因は多様で、家庭内の課題が原因になることが多い様です。子どもがSOSを出しているのに助けることが出来ず、未来ある尊い命を、身勝手な親により奪われる痛ましい報道がされる度防ぶことが出来なかつたのかと、かわいそうになります。新学期がはじまり、すべての子どもさんに幸あれと願っています。

(土屋 珠江)

訂正とお詫び

135号P3右下パネルディスプレイクションで、本市の西村正治さんの所属民児協は「芳川地区民児協」ですので訂正させていただきます、お詫び申し上げます。